

JLEM News Letter Vol.50



第56回日本語教育方法研究会開催

発表 72 件 参加者 268 名
第 57 回 オンライン開催

2021年3月16日(火)、第56回日本語教育方法研究会がオンラインで開催されました。

前日3月15日には、運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

次回の第57回研究会は2021年9月12日にオンラインで開催されます。皆様、ふるってご参加ください。

開催を終えて

中川 健司
(事務局)

第56回研究会は、2021年3月16日(火)にオンラインで開催され、72件の発表が行われました。おそらくこの発表件数はオンラインの日本語教育関連の学会、研究会の中でも最も多いものの一つだったのではないかと思います。発表者、参加者の皆様のご協力のおかげで、当日は大きなトラブルもなく、無事研究会を終えることができました。改めてこの場で感謝を申し上げます。

ニューズレター49号に「次回の第56回研究会もオンラインで開催する予定ですが、よりよい研究会とできるように再度開催方法を検討したいと思います。」と書きましたが、10

月にWeb会議ツールRemoでのポスター発表の試用を行う等、開催方法をいろいろと検討した結果、今回の形に落ち着きました。今回も参加者を対象にアンケートを実施しましたが、前回以上に肯定的なコメントをいただくことができました。次回の第57回研究会もオンラインで開催しますが、今回の開催方法を継続するということがいいのではないかと考えています。

オンライン開催の研究会では、従来の対面式のもののような参加者同士の交流が限られてしまうという面があります。少しでもそれを補うために、今回は参加者全員をブレイクアウトセッションでランダムにグループ分けし、そこで自己紹介、面白かった発表などについて話していただくという形の交流会を、昼休みおよび発表終了後の2回行いました。誰と同じグループに入るかわからないという形なので、コミュニケーションを取るのが難しくなるという懸念もあったのですが、アンケート結果を見る限りでは、初対面同士の会話を楽しんでくださった方が多いようで安心しました。次回も同様の交流会を行う予定ですので、今回は参

加されなかった方も次は是非チャレンジしていただきたいと思います。

次回開催にあたって

中川 健司
(事務局)

第56回研究会で発表したように、第57回研究会については、2021年9月12日(日)にオンラインで開催する予定です。新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たない現在、参加者の皆様の安全を確保した状態で対面式の研究会を開催するのは難しいと判断いたしました。

第57回研究会でも新規の発表を募集する予定ですが、運営上の都合により発表件数の上限を80件としました。発表申込件数がそれを上回った場合には、発表申込をされた方から抽選で発表をしていただく方を決め、抽選から漏れた方は、会誌原稿掲載をもって発表成立といたします。

運営委員会報告

運営委員会は、研究会の前日の3月15日(月)にZoomを用いて開かれました。27名の運営委員のうち、17名の運営委員が参加し、参加できなかった委員からは委任状が提出されました。今回の運営委員会で報告、審議されたことを、以下にご報告いたします。

① 会員数

2021年3月15日現在の会員数は620名になりました。

② 次回、次々回研究会の開催予定について

次回研究会は、2021年9月12日（日）に開催することに決定いたしました。次々回研究会は、2022年3月の平日に開催することを予定しております。どちらも状況を鑑みて、Zoomでの開催です。

③ 日本語教育方法研究会優秀賞について

2013年3月開催の20周年記念の研究会から、優秀な発表に対して表彰を行うことになっています。しかし、オンライン開催では、発表をくまなく見て、選考することが難しいため、今回、及び次回、次々回研究会においては表彰を行わないこととしました。

④ 運営委員の異動について

鹿嶋彰さん、向井留実子さん、本郷智子さんが退任しました。鹿嶋さん、向井さん、本郷さんありがとうございました。

⑤ 会員システムについて

研究会に関するさまざまな労力を減らすため、現在の会員システムについて検討することとなりました。

(河野俊之)

事務局よりご連絡

●発表申し込み方法について

第56回同様、第57回研究会についても発表申込時に会誌原稿を提出していただくという形をとります。ご協力をお願いいたします。

●発表者の会費支払期限について

第57回研究会で発表するためには、発表者（複数の場合は全員）は応募時点で2021年度の会費（2021年4月からの新年度分）を支払っていただかなければなりません。今回はその期限を7月14日としました。その時点で入金を確認できない方については、発表申し込みを受け付けることはできませんので、それを見越して、お早めにご入金をお済ませください。発表申し込みを行う前に必ず発表者全員が各自の会員ページで会費支払いが済んでいることを確認するようにしてください。

●発表をお断りする場合

本研究会では、以下の場合発表をお断りする場合がありますので、ご承知おきください。

- ①特定の個人や集団を攻撃する内容のもの
- ②研究倫理上問題があると考えられるもの
- ③特定の教材、商品、サービス等を宣伝するもの

●発表者の所属先の記載について

発表者の所属先の記載のしかたにばらつきがあるため、今後以下のように統一いたします。

- ・原則的には（強い希望がない限りは）、組織名（大学名）のみ表記し、部局名（例：～研究科、～学部、～センター）は付けないようにしてください。
- ・大学院生、学部生の場合には、「〇〇大学大学院生」もしくは「〇〇大学学部生」と記してください。

●住所変更等

JLEMでは、会員管理システムに登録された会員住所に会誌を郵送します。住所変更が行われず、あるいは宛名不明のため、会誌が返送されてくるケースがあります。住所変更等があった場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。

(中川健司)

会費納入について

会費は年3,000円です。また、会計年度は、4月から3月です。研究会のスムーズな運営のためにも、できるだけ6月30日までにお支払いくださいようお願いいたします。

●振り込み先

「郵便局の電信払込」で以下にお振り込みください。

記号：10140

番号：69076511

加入者名：日本語教育方法研究会
振込者名：（氏名だけでかまいません）

●所属先名で振り込む場合

所属先の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。所属先が前だと会員名がカットされることがあります。

●会員番号で振り込む場合

会員番号の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。会員番号が前だと会員名がカットされることがあります。

●ご登録の会員名と異なる名義で振り込む場合

必ず振り込みの度に、ホームページの「お問い合わせ」より、その旨ご連絡ください。

●振り込む方の名義が外国語で表記される場合

ご登録の会員名が確認できないことがよくあります。特に、中国の方はピンインで表記されることが多いため、ご登録の会員名（JLEMのシステムでは漢字とカタカナのみ）を検索して確認するのに時間がかかっています。お手数ですが、振り込んだというご連絡をいただくと助かります。

●振り込みに必要な情報

ゆうちょ銀行の支店名や預金種目が必要な場合、便宜上の店名は、以下のようになっています。

銀行名 ゆうちょ銀行
金融機関コード 9900
店番 018

預金種目 普通
（「普通」「貯蓄」のいずれも可）
店名 〇一八 店(ゼロイチハチ店)
口座番号 6907651
（高橋 亜紀子）

ご連絡先を
お知らせください

会費をお振り込みいただいた方で、以下の方のお名前が会員名簿で確認できておりません。お心当たりの方は事務局までお知らせください。

2016/09/23 日付け 3000 円振込み
「フジタ キョウコ」
2016/09/24 日付け 3000 円振込み
「鈴木 聡子」
2017/06/28 日付け 3000 円振込み
「オオタカ ヨウ」
2018/09/07 日付け 2000 円振込み
「馬場 正子」
2018/09/08 日付け 3000 円振込み
「福良 直子」
2019/03/23 日付け 3000 円振込み
「渡邊 美和子」

2019/11/16 日付け 6000 円振込み
「カイインバンゴウ 20」
2019/11/20 日付け 3000 円振込み
「イトウ エミ」
2020/03/29 日付け 9000 円振込み
「カイインバンゴウ201」
2020/08/17 日付け 6000 円振込み
「デンキツウシンダイ ハ」
2020/11/04 日付け 3000 円振込
「ショウワジョシダイガ」
2021/01/12 日付け 3000 円振込み
「ヤマモト ヒロフミ」
2021/01/21 日付け 3000 円振込み
「X I A Y I H U」
2021/04/05 日付け 3000 円振込み
「ニオンゴキョウイクホウホ」
2021/04/05 日付け 3000 円振込み
「ガク）メジジョウダイ」
2021/04/24 日付け 3000 円振込み
「コマツ マリエ」

（敬称略，5月5日現在）
（長谷川守寿）

日本語教育方法研究会
問い合わせ先：jlem-ml@jlem-sg.org
（レター編集：世良時子）